

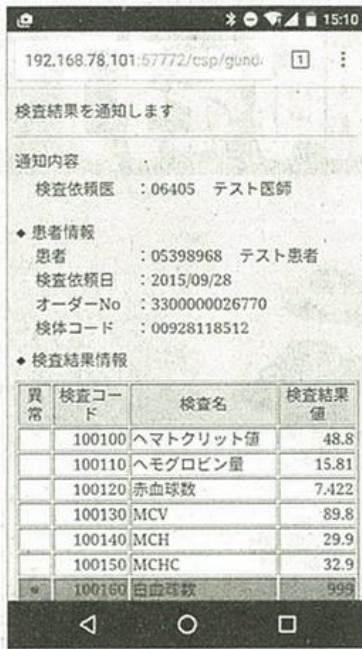
# 患者の検査結果に異常値

# 医師のスマホに通知

とリード  
群馬大医学部

医療・介護向けシステムを手がけるリード（前橋市）は群馬大学医学部付属病院の鳥飼幸太准教授と共同で、患者の検査結果に異常値が出た場合、医師のスマートフォン（スマホ）に自動的に

通知するシステムを開発した。これまでの電話や電子カルテを使った通知に比べ、情報が正しく伝わらなかつたり不在時に連絡が遅れたりするリスクを軽減できる。病院の検査部門から送



信された患者の検査結果を判定システムがチェック。「生命が危ぶまれるほど危険な状態」と判断すると担当医師のスマホに自動表示する。一定時間がたっても担当医師が通知を確認しない場合、前もって登録してある緊急連絡網で他の医師に輪番で転送する。ガンや内臓疾患、感染症といった病気では「生

検査結果をスマホに自動表示する（テスト画面）

命が危ぶまれるほど危険だが、直ちに治療を開始すれば救命できる」状態にあることが血液や尿、心電図や脳波などの検査で初めて判明することがある。こうしたデータを「パニック値」と呼び、

緊急に治療を開始すべきかどうか判断する基準にしている。スマホに自動通知するシステムを導入することで、連絡が遅れるリスクを減らす。群馬大医学部付属病院で使用して使い勝手を検

証。そのうえで全国の医療機関への販売を目指す。当面は群馬大の構内LAN内で使うが、将来はクラウドコンピューティングを活用し、地域の医療機関全体で活用することも視野に入れる。